

明治大学教養論集 通巻388号  
(2005・1) pp.69-109

## 『文法規範』 卷二

—— 翻刻並びに注 ——

岩 井 憲 幸

### 例 言

- 一 本稿は静嘉堂文庫所蔵『文法規範』六卷五冊（卷五は欠）のうち、さきに発表した巻一の翻刻に続く、巻二の翻刻である。以下続刊。巻一翻刻：本誌通巻 379 号，2004 年 1 月，pp. 55-87.
- 一 書誌事項は巻一凡例に譲るが、巻二は大きさが横幅において他より 1 cm ほど小さい。巻一 184×130 耗前後。
- 一 翻刻の方針も巻一凡例に譲る。おおむねその基本方針を踏襲するが、今回次の 5 点を変更する。
  1. 原本の体裁を第一とする。和文は、原本における大・中・小字のままとした。ただし双行は単行とした。中・小の文字は判別が難しい場合もあり、恣意的とならざるをえなかった。
  2. 墨および朱による訂正が加えられている場合、訂正後の文字を正文として翻刻本文とする。訂正内容は注で示す。鉛筆による訂正は後代のものと考えて採らないが、注では言及する。
  3. ロシア文字の大・小は判定が困難であり、やや恣意的とならざるをえなかった。
  4. 注は校訂注を中心とすることに変わりはないが、今回ロモノソフや

クルガーノフ、さらにバールソフの文法との比較を行なわざるをえなかった場合がある。その際ロモノソフ、クルガーノフ、バールソフの文法書をそれぞれ L, K, B と略記し、グロヴニーンを G と略記する。前者の文法書は巻一翻刻の参考文献 A および本例言末に掲げたプリント版および翻刻版に依る。

5. ロシア語の綴り・形態に関する注はできる限り付したが、不完全である。

一 参考文献リストに次の4点を追加する。

- 1) М. П. Тоболова - Б. А. Успенский, Российская грамматика Антона Алексеевича Барсова, Изд-во Московского университета, 1981.
- 2) А. Н. Тихонов, Словообразовательный словарь русского языка, т. 1-2, М., 1985.
- 3) E. Daum - W. Schenk, Die russischen Verben, Leipzig, 1963.
- 4) W. Martin - G. A. J. Tops, Van Dale Groot woordenboek Nederlands-Engels, Engels-Nederlands, Utrecht-Antwerpen, 1991.

魯<sup>(1)</sup>  
語  
文  
法  
規  
範  
卷  
二

」(表紙)

---

注 (1)「魯語」の2字京大本なし。

## 二 之 卷 範 規 法 文

1

[O]<sup>(1)</sup> Именахъ<sup>(2)</sup> Увеличитель-<sup>(3)</sup>ныхъ, и Уменьшительны-<sup>(4)</sup>хъ. 『廣大名辞 及 狹小名辞』<sup>(5)</sup>

魯西 [亞]ノ實名辞並ニ属名辞ハ辞尾ニ若干ノ字ヲ

5

加附シテ是ヲ 『Увеличительныя』<sup>(6)</sup>имя<sup>(7)</sup>. (『<sup>(8)</sup> 廣大名辞ト譯ス。此名和蘭ニナシ 』ニ作リ』<sup>(9)</sup>或ハ 『Уменьшительныя имя』<sup>(10)</sup>(狹小名辞ト譯ス。和蘭ニ是ヲ Verkleinendenaam<sup>(11)</sup><sub>(12)</sub>ト云フ 』トナス』<sup>(13)</sup>。其 Увеличител-

10

ьныя имя<sup>(14)</sup> [.] 廣大名辞『ト云フハ』<sup>(15)</sup> 事物ヲ (1 オ)

注 (1) 卷1・23 オの《О степеняхъ уравнения.》の前例による補い。(2) Ъ-とアクセント記号鉛筆書き。京大本墨書き。正しいアクセントの位置は Именáхъ。(3) Увѣ-とアクセント記号鉛筆書き。京大本なし。はじめ Увеличитель-と書き、-чи-のч全部と и の半分を朱で抹消。京大本同様に朱で抹消。正しい形態とアクセントは Увеличѣтель-。(4) Умѣ-とアクセント記号鉛筆書き。京大本なし。正：Уменьшительны-。なお L, K の用語は умалительныя。(5) 京大本も朱筆。(6) 語尾 -ныхъ の末2字のうち ъ を抹消、х を я に訂正。ともに墨による。京大本同じ。(7) 正：имена。(8) 京大本も朱筆。(9) 京大本も朱筆。(10) 京大本も朱筆。正：Уменьшительныя имена。(11) あるいは Verkleinende ~。とも読める。正：verkleinend naamwoord. なお中野抑園に verklijnnaamwoorden の用語あり。現代の用語は verkleinwoorden。(12) 下線朱筆。京大本も同じ。(13) 京大本も朱筆。(14) 正：имена。(15) 京大本も朱筆。

廣大ニ云フ寸ニ用フルナリ。如設 Домъ<sup>(1)</sup>, 家ヲ

1

домина, 或ハ домиша<sup>(2)</sup>. 共ニ家宅ノ義ナリ。但シスノ如クニ轉シメテ云フ寸ハ大ノ字ヲ加ス<sup>(3)</sup>シテ大家ノトナル。『ト云フガ如シ。』<sup>(4)</sup> 又其 Умен-шительныя имя<sup>(5)</sup>. 狹小名辞『ト

5

云フハ』<sup>(6)</sup> 事物ヲ輕シメ或ハ狹小ニ云フ寸ニ用フルナリ。如設右ノ Домъ, 家ヲ домишка<sup>(7)</sup>, 或ハ

ДОМИКЪ. 共ニ家宅ノ義ナレトスノ如云ヘハ小ノ辞ヲ加ヘスシテ小家ノ意ヲ含ムナリ。『ト云フガ如シ。』<sup>(8)</sup>

<sup>(9)</sup>凡ソ是ハ Увеличительныя

имя<sup>(10)</sup>, 廣大名辞 並ニ Уменьшите-

10

льныя имя<sup>(6)</sup>. 狹小名辞『ハ』<sup>(11)</sup> (1 ウ)

注 (1) Дó- とアクセント記号鉛筆書き。京大本も鉛筆書き。(2) 正：домище。(3) 「加ス」ママ。(4) 京大本も朱書。(5) 正：уменьшительныя имена。(6) 京大本も朱書。(7) 正：домишко。(8) 京大本も朱書。(9) 「凡」の前に丸括弧鉛筆書きあり。この括弧のとじは次葉2オ2行目末。京大本も同じ。(10) 正：имена。(11) 朱書ははじめ「ニ作ルニハ」とあったものを、「ニ作ルニ」の部分をもて抹消。京大本もまったく同じ。

共ニ貴人ノ談話或ハ書冊等ニ用フル辞ニ非ス。

1

唯平談ノ用而已<sup>(1)</sup>。

凡ソ名辞ヲ右ノ Увеличительныя

имя<sup>(2)</sup>, 廣大名辞 或ハ Уменьшите-

льныя имя<sup>(3)</sup>〔.〕 狹小名辞ニ作ルニ

5

通法アリ。即是ヲ左ニ出ス。

諸實名辞ノ中ニテ陽種ナル辞ヲ Увеличи-

тельныхъ именъ<sup>(4)</sup>〔.〕 廣大名辞<sup>(5)</sup>

トナスニハ其辞尾ニ ша<sup>(6)</sup>或ハ на<sup>(7)</sup>ノ字ヲ

加附スルナリ。又是ヲ Уменьшитель-

10

ныхъ именъ<sup>(8)</sup>〔.〕 狹小名辞トナスニハ」(2 オ)

注 (1) 「而已」のうしろに丸括弧とじと読点鉛筆書き。京大本同じ。(2) 正：имена。(3) 正：уменьшительныя имена。(4) 正：Увеличительныя имена。はじめ Увеличительныя именъ とあったものを、形容詞の末尾の я を х となぞりさらに ь を付加し、名詞は語中の я を墨で消して下に е と訂正する。京大本後者 -ннъ とあり第1の н を消して е と下書き。なおここでの複数生格形は、以下でもたびたび出てくるように、原文での格形をそのまま訳文中にもち込んだがゆえであろう。(5) こののち1字墨にて抹消。消された文字は不明。京大本も同じだが、京大本の消された文字は「以」か。(6) 正：-ище。(7) 正：-ина。(8) 正：уменьшительныя имена。

- 本辞ノ端尾ニ чіонь<sup>(1)</sup> 或ハ чкъ<sup>(2)</sup> 或ハ шка 1
- ノ字ヲ加ルナリ ○陰種ナル辞ヲ Увеличите-  
льныхъ именъ<sup>(3)</sup> [. ] 廣大名辞トナスニハ本辞ノ  
尾ニ ща<sup>(4)</sup> ノ字ヲ附シ又是ヲ Уменшите-  
льныхъ именъ<sup>(5)</sup> [. ] 狭小名辞トナスニハ 5  
шка 或ハ ѣонка<sup>(6)</sup> ノ字ヲ尾スルナリ。  
其中種ナル辞ヲ Увеличительны-  
хъ именъ<sup>(3)</sup> [. ] 廣大名辞トナスニハ本辞ニ  
ща<sup>(7)</sup> ノ字ヲ尾シ又是ヲ Уменшите-  
льныхъ именъ<sup>(5)</sup> [. ] 狭小名辞トナスニハ 10  
шко 或ハ чко ノ字ヲ附スルナリ。」 (2 ウ)

---

注 (1) 正：-іокъ。はじめ чіокъ とあったものを к を抹消し、その上方に鉛筆で н と訂正する。京大本も同じだが、抹消・訂正ともに鉛筆による。(2) 正：-чикъ。(3) 正：Увеличительныя имена。(4) 正：-ища。(5) 正：Уменьшительныя имена。(6) 原本 ѣ- のようにあるが ѣ- とする。京大本 ю-。(7) 正：-ище。なお、原本 ща の次の1字分空間に上下おのおの1字計2字のロシア文字のごとき文字が書かれているが読めない。今、翻字できず。

---

- 諸属名辞ハ廣大名辞ニ作ルヲナシ<sup>(1)</sup>。惟狭 1  
小名辞トナス而已。是ヲ狭小辞トナスニハ  
陽種ナレハ本辞ニ на 或ハ кой<sup>(2)</sup> ノ字ヲ  
尾ル。陰種ナレハ кая ノ字ヲ尾シ中種  
ナレハ кое ノ字ヲ尾スルナリ。 5  
如斯規法ヲ示スト云々異邦ノ人ハ右ノ  
例ニ倣テ誤リナク作り轉スルヲ能ハス。  
如何トナレハ第一何レノ名辞ニハ何レノ字ヲ  
附スルト云フヲ知レス。第二ニハ本辞ノ端尾  
ノ字ヲ全ク除クカ或ハ他字ニ変シ置カ知レ 10

サレハナリ。亙ク左ニ出ス例ヲ見ルヘシ。唯」(3 オ)

注 (1) 形容詞が指大形を作らないとするこの一文は、Lの「指大形容詞は、名詞のような粗野な意味ではなく、柔和な意味を有する」(op. cit. § 247) や Kの「指大形容詞を柔和さを表わす」(op. cit. p.20 の6) という意味論に重きをおいた言説を初学者のために換言したものであろう。(2) Lによれば вать と хошекъ, шенекъ, Kによれば вать と некъ が接尾辞として与えられている。

習練ニ因テ自ラ是ヲ會得スルノ外更ニ示スヘキノ

1

法ヲ知ラス。 陽種ノ名辞

廣大辞  
Увеличительныя.

Попъ, 僧 попишша<sup>(1)</sup>, попниа<sup>(2)</sup>.

大僧

5

Мужикъ. 男 мужичишша<sup>(3)</sup>,

мужичина<sup>(4)</sup>. 大男

Звѣрь<sup>(5)</sup>. 野獸 звѣришша<sup>(6)</sup>,

звѣрина<sup>(7)</sup>. 大野獸」(3 ウ)

注 (1) 正：попище. 語中第1のшを抹消。京大本同じ。-ишшаの上に鉛筆で横線。京大本同じ。(2) -инаの上に鉛筆で横線。京大本同じ。(3) 正：мужичище. 語中第1のшを抹消。京大本同じ。-шаの上に鉛筆で横線。京大本同じ。(4) -инаの上に鉛筆で横線。京大本同じ。(5) ъの上に鉛筆でアクセント記号。京大本同じ。(6) 正：звѣрище. 語中第1のшを抹消。京大本同じ。ъの上に鉛筆でアクセント記号, -шаの上に鉛筆で横線。京大本ともに同じ。アクセント正しくは-ри-。(7) ъの上に鉛筆でアクセント記号, -наの上に鉛筆で横線。ともに京大本同じ。アクセント正しくは-ри-。

狭小辞  
Уменьшительныя<sup>(1)</sup>.

1

попишка<sup>(2)</sup>, попикъ<sup>(3)</sup>. 小僧

мужичишка<sup>(4)</sup>, мужичѣнка<sup>(5)</sup>,

мужичѣнь<sup>(6)</sup>. 小男

5

звѣрочикъ, звѣрокъ,

звѣргон<sup>(7)</sup>. 小野獣」(4オ)

注 (1) 正: Уменьшительный. (2) -шка の上に鉛筆で横線。京大本同じ。 (3) -къ の上に鉛筆で横線。京大本同じ。 (4) -шка の上に鉛筆で横線。京大本同じ。 (5) го は原本 ю とあり, 上の線を鉛筆で消す。原本 ю は го と読む。京大本 ю. (6) 正: мужичюкъ. го は原本 ю とあり, 上の線を鉛筆で消す。京大本 ю. (7) 正: звѣргонъ. 原本, 京大本ともに ю とあり. го と読む。語末 -н のうしろに鉛筆で ь とあり。京大本墨にて ь.

## 陰種名辞ニテ

1

Увеличительный. 廣大辞

Баба. 婆 бабища<sup>(1)</sup>.Корова. 牝牛 коровища<sup>(2)</sup>.Плеть. 鞭 плетища<sup>(3)</sup>.

5

## 中種名辞ニテ

Увеличительный. 廣大辞

Кольцо<sup>(4)</sup>. кольцощю<sup>(5)</sup>.Крыло<sup>(6)</sup>. крылищю<sup>(7)</sup>.Бревно. бревнащю<sup>(8)</sup>.」(4ウ)

10

注 (1) 正: бабища. 語中第1の щ を鉛筆で消す。京大本同じ。 -ща の上に鉛筆で横線。京大本同じ。 (2) 正: коровища. 語中第1の щ を鉛筆で消す。京大本同じ。 -ща の上に鉛筆で横線。京大本同じ。 (3) 正: плетища. 語中第1の щ を鉛筆で消す。京大本同じ。 -ща の上に鉛筆で横線。京大本同じ。 (4) この語の後に鉛筆で「環」とあり。京大本同じ。 (5) 正: кольцоще. (6) はじめ語頭を Ко- と書き, о を墨で抹消。京大本同じ。 (7) 正: крылище. (8) 正: бревнище.

同左<sup>(1)</sup>

1

Уменьшительный<sup>(2)</sup>. 狭小辞бабишка<sup>(3)</sup>, бабгонка.



коровишка<sup>(4)</sup>, корвѣнка.

плетшка<sup>(5)</sup>, плетѣнка.

5

同左<sup>(6)</sup>

Уменьшительныя<sup>(2)</sup>. 狭小辞

колечко<sup>(7)</sup>, кольчѣнка<sup>(8)</sup>.

крылошко<sup>(9)</sup>, крылѣнко<sup>(8)</sup>.

бревнашко<sup>(10)</sup>, бревнѣнко<sup>(8)</sup>.」(5 オ)

10

---

注 (1)「陰種名辞ニテ」の意。(2) 正: Уменьшительныя. (3) 正: бабушка. (4) 正: коровушка. (5) 正: плетюшка. (6)「中種名辞ニテ」の意。(7) はじめ коре- と書き, 墨で p を消して л を上書きして訂正。京大本同じ。(8) 語形未確認。なお -ѣнко は -ѣнка か。(9) 正: крылышко. (10) 正: бревнышко.

---

[O]<sup>(1)</sup>Именахъ числительныхъ.

1

數 名 辞

Числительныхъ имена<sup>(2)</sup>. 数名

辞 ハ算數ニ用フル名辞ナリ。其數四種アリ。

第一ヲ Основательныя число<sup>(3)</sup>.

5

其數名 ト云ヒ

第二ヲ Порядочныя число<sup>(3)</sup>.

序數名 ト云ヒ

第三ヲ Собираательныя чи-

сло<sup>(3)</sup>. 合數名 ト云ヒ

10

第四ヲ Пропорціональныя<sup>(4)</sup>.」(5 ウ)

---

注 (1) 卷 1 の 23 オの《О степеняхъ уравненія》と, 前置詞の o が用いられていることによる。cf. L, K: О именахъ числительныхъ. (2) 正: Числительныя имена. (3) 正: числа. いずれも語末の o に鉛筆で一筆加えて a と訂正。京大本に同じ。(4) 正: Пропорціональныя.

---

число<sup>(1)</sup>. 比例數名 ト云フナリ。

1

第一 Основательныя число<sup>(1)</sup>.

基数名 ト云フハ品物ノ数ヲ云フ辞ニシテ即

Одинъ. — Два. 二

Три. 三 Четыре [.] 四

5

Пять [.] 五 等ノ類是ナリ。

此中ニテ Одинъ — [,] два 二 ノ数辞而已ハ

種類陰陽中ノ三種ヲ云 二因テ変移スルナリ。餘ハ然ラス。

如設 Одинъ человекъ. 一人

Одинъ<sup>(2)</sup> женщина. 一女

10

два жеребца<sup>(3)</sup>. 二牡犬<sup>(4)</sup>」(6 オ)

---

 注 (1) 正：числа. いずれも語末の о に鉛筆で一筆加えて а と訂正。京大本同じ。

(2) 正：одна. (3) 正：жеребца. (4) 「牡犬」とあるが жеребецъ は「牡馬」。

---

 двѣ кобылы. 二牝馬 トナスガ

1

如シ〇 Три. 三 以下ノ数辞ハ変移

スルヲナク即 три быка. 三牡牛

три коровы. 三牝牛 четы-

ре гуся. 四雄雁 четыре

5

гусына<sup>(1)</sup>. 四雌雁

## 第二 Порядочныя числа.

序数名 ト云フハ事物ノ順序ヲ云フ数名ナリ。

如設 Черой<sup>(2)</sup>. 第一 второй.第二 третей<sup>(3)</sup>. 第三 четвер-

10

той<sup>(4)</sup>. 第四 пятой<sup>(4)</sup>. 第五」(6 ウ)

---

 注 (1) 正：гусыни. (2) 正：Первый. 原本鉛筆で加筆して Первый とする。すなわち鉛筆で ч- を п- に、-ой を -вы- に変じ、さらに語末に й を付加する。京大本同じ。(3) 墨書きの -ей の е を鉛筆で i と訂正。京大本は -ий. -ей. -ий とともに可。L

は前者。(4) -ой の語尾は許容形。L はむしろ -ой の綴り。K は первый, ой のように並置する。

等ノ類是ナリ。都テ此類ノ数辞ハ皆種類, 單復, 1

轉格ニ因テ属名辞ト共ニ<sup>(1)</sup> 変移スルナリ。

第三 Собираательные числа.

合数名ト云フハ数多ノ物品ヲ一辞ヲ以テ其

数ヲ云フ其数名ナリ。如設 пара. 對ト 5

譯ス。即同物二箇ナリ。дюжина. 連ト譯ス。

即十二箇ナリ。полдюжина<sup>(2)</sup>. два

десяток<sup>(3)</sup>. 二組 три десятка.

三組 четыре десятка. 四組

пять десяков<sup>(4)</sup>. 五組 10

Соткя<sup>(5)</sup>. 百ッк двѣ сотки<sup>(6)</sup>. 二百ッк」(7 オ)

注 (1)「共ニ」は「同じく」の意。(2) はじめ пор- と書き, р を墨で消したまま л に  
続ける。京大本同じ。正：полдюжины。(3) 正：десятка。(4) 正：десятковъ。

(5) 正：Сотня。(6) 正：сотни。

три сотки<sup>(1)</sup>. 三百ッк 等ノ類是ナリ。 1

是等ハ單復, 轉格ニ因テ変移スルヲ實名辞ノ

轉例ニ倣フ。

第四 Пропорциональные<sup>(2)</sup>

числа. 比例数名ト云フハ事物ノ大 5

小並ニ其性質等ヲ相比シテ云フニ用フル数

名ナリ。如設 двойной. 二倍

тройной. 三倍 четверной<sup>(3)</sup>.

四倍 пятерной<sup>(4)</sup>. 五倍 等ノ類是

ナリ。是等ハ單復, 種類, 轉格ニ因テ変移 10

スルヲ右ニ云フ порядочные чи-」(7 ウ)

注 (1) 正：сотни. (2) 正：Пропорциональные. (3) 語中の -ве- の e に鉛筆で 2 点を上書きし ъ とする。京大本なし。 (4) 語中 -ри- の間に鉛筆で ич を上書きして加え、さらに鉛筆で語尾の -ой の o を ы と訂正し、結果 пятеричный とする。京大本同じ。

сла. 序数名 ト相等々属名辞ノ轉例ニ倣フ。 1

時トシテハ въ двое<sup>(1)</sup>. 二倍 въ трое<sup>(2)</sup>.

三倍 въ четверо<sup>(3)</sup>. 四倍 въ пя-

теро<sup>(4)</sup>. 五倍トモ云ヒ въ двараза<sup>(5)</sup>.

二倍 въ трираза<sup>(6)</sup>. 三倍 въ 5

четыре раза. 四倍 въ пя-

ть раза<sup>(7)</sup>. 五倍云フナリ。」(8ウ)

注 (1) ふつう вдвое と綴る。 (2) ふつう втрое. (3) ふつう вчетверо. (4) ふつう впятеро. (5) 正：въ два раза. (6) 正：въ три раза. (7) 正：въ пять разъ.

## 二 第 之 篇 辞 名 代 1

Мѣсто Именія<sup>(1)</sup>.

凡 мѣсто именія<sup>(1)</sup>. 代名辞 ヲ分テ

六種トナス。

其一代人名  
一 Личныя мѣстоименія. } 5  
和蘭 persoonlijk voornaam voord.<sup>(2)</sup>

其二 Притежательныя<sup>(3)</sup>

мѣстоименія. 司領代名  
和蘭 bezittende voornaam voord.<sup>(4)</sup>

其三 Указательныя мѣсто-

именія. 直指辞  
和蘭 Wijzende voornaamvoord.<sup>(5)</sup>

其四 Вопросительныя мѣ- 10

СТОИМЕНІЯ. 問代名 和蘭 Vrayende voornaamwoord.<sup>(6)</sup>」(8ウ)

注 (1) 正：Мѣстоименія. (2) 正：persoonlijk voornaamwoord. オランダ語の v と w の筆記体が近似しているが、以下明確な区別あるもののみを w とした。なおオランダ語の術語はロシア語術語の下方に注のごとくくっつけて書いてある。ゆえにこれら双方で 1 行とみる。(3) 正：Притяжательныя. (4) 正：bezittend voornaamwoord. (5) 正：wijzend voornaamwoord. 京大本 voornaam voord と原本において語を 2 語に分かつ。(6) 正：vragend voornaamwoord.

## 其五 Относительныя мѣсто[-]

1

имѣнія. 再呼詞

## 其六 Возвратныя мѣстоимѣ-

нія<sup>(1)</sup>. 歸應辞 和蘭 Wederkeerende voornaamwoord<sup>(2)</sup>.

此代名辞ノ中多分ハ種類, 單復, 轉格ニ因テ

5

変移スルナリ。左ニ出ス例ヲ以テ知ルヘシ。

第一 Личныя мѣстоимѣнія<sup>(1)</sup>.

ト云フハ三人共ニ呼フ所ノ代名辞ナリ。即如左。

Единственное число. 單貞

{	Я. 予 [Онѣ. 彼] <sup>(3)</sup> 陽辞	Она. 彼 陰辞	10
	ты. 你	Оно. 彼 中辞」(9オ)	

注 (1) 正：мѣстоименія. (2) 正：Wederkeerend voornaamwoord. 現代語 wederkered ~, wederkerig ~. 京大本 voornaam. (3) 10 オの表による補い。

Множественное число. 復貞

1

{	Мы. 予等 [Они. 彼等] <sup>(1)(2)</sup> 陽辞	Они <sup>(2)</sup> . 彼等 陰辞
	Вы. 你等	Онѣ <sup>(2)</sup> . 全 中辞

按スルニ彼, 彼等ト云フ辞和蘭ニテハ單貞ナレハ

hij. 彼ト云フテ陽種中種ニ通シテ陰種ニハ Zij ト

5

云フテ別ニ中種ノ彼ト云フ辞ナシ<sup>(3)</sup>。又復貞ナレハ三種共ニ

Zij. 彼等ト云フ而已。然ニ魯西[亞]語ニハ彼ト云フ辞三種

共ニ別ニス。是和蘭ト其法同キニ似テ異ル所アリ。」(9ウ)

注 (1) 10ウの表による補い。(2) ここでは3人称代名詞の男性・女性・中性の複数をそれぞれ они, они, онѣ としているが、これは10ウの表のそれぞれ они, онѣ, оня (sic. 正: онѣ) と矛盾する。さらに K は они は男性, онѣ は中・女性に用いるのを良しとする。ただし B は男・女が они, 中を онѣ としながらも、厳格な使い分けがない由を注する。G のここは B に合致し、G の10ウの表は K に合致することになるが、かかる混乱は B の注にいう実情の反映であろうか。なお cf. グレーボフ 男・中性 они, 女性 онѣ。(3) 事実を誤認。「中種の彼」は het.

負 單					1
第一格	(1) — Я, 予 <sub>ハ</sub>	(2) — ты, 你 <sub>ハ</sub>	陽 Онѣ, 彼 <sub>ハ</sub>	陰 Она, 彼 <sub>ハ</sub>	中 Оно, 彼 <sub>ハ</sub>
第二格	[Меня,	тебя,] (3)	его, 彼 <sub>ハ</sub> —	ея, 全 —	онаго. (4) 全
第三格	Мнѣ, 予 <sub>ニ</sub>	тебѣ, (5) 你 <sub>ニ</sub>	ему, 彼 <sub>ニ</sub> —	ей, 彼 <sub>ニ</sub> —	оному. (4) 全
第四格	Меня, 予 <sub>ヲ</sub>	тебя, 你 <sub>ヲ</sub>	его, 彼 <sub>ヲ</sub> —	ее, 全 —	оное. (4) 全
第五格 (6)	[—] (7)	ты 你	[—] (7)		
第六格	Мною, 予 <sub>ヲ</sub>	тобой, (8) 你 <sub>ヲ</sub>	имѣ [ , ] 彼 <sub>ヲ</sub> —	сю, 全 —	онимъ. (4) 全
第七格	О мнѣ, 予 <sub>ニ於テ</sub>	О тебѣ, 你 <sub>ニ於テ</sub>	О имѣ, (9) 彼 <sub>ニ於テ</sub> —	О ней, 全 —	Объ оноmъ. (4) 全 ] (10オ)

注 (1) 墨で「陽」を抹消。京大本同じ。(2) 墨で「全」を抹消。京大本同じ。(3) L, K による。(4) оно の斜格は L, K によれば его, ему, ея, имѣ, о немѣ。今日も同じ。ただしここでは онѣ の元来の形の教会スラブ語形に意味上関連つけた上で、形態は、形容詞の оный の中性形によって、斜格形を提示している。G による中性対格 оное を用いた例文が 31ウ8行, 11行に見える。(5) はじめ ти- の и を墨で e に訂正し、さらに e と上書き訂正する。京大本同じ。(6) звательный (呼格)。(7) L による。K なし。(8) 正: тобой。L, K тобою。-ой 許容形。なお B は мною и мной, тобою и тобой。(9) 正: О немѣ。

## 負 復

1

第一格	мы, <sup>(1)</sup> 予等。	вы, 你等。	男 Они, 彼等。	女 Онѣ, <sup>(2)</sup> 全	中 Оня. <sup>(2)</sup> 全
第二格	[насъ,	васъ,] <sup>(3)</sup>	ихъ. 彼等,	.....,	.....
第三格	намъ, 予等。	вамъ, 你等。	имъ. 彼等。	.....	.....
第四格	насъ, 予等,	васъ, 你等,	ихъ. 彼等,	.....	.....
第五格	<sup>(4)</sup> насъ[, ] 予等	вы, 你等	ихъ. 彼等	.....	.....
第六格	намъ, <sup>(5)</sup> 予等。	вами, 你等。	ими. 彼等。	.....	.....
第七格	О насъ, 予等 <sub>ヲ</sub> 於 <sub>ニ</sub> ,	О васъ[, ] 你等 <sub>ヲ</sub> 於 <sub>ニ</sub> ,	Объ ихъ. <sup>(6)</sup> 彼等 <sub>ヲ</sub> 於 <sub>ニ</sub> ,	.....	.....」(10 ウ)

5

注 (1) мы 以下「第一格」の行に書かれるべき事柄が「第二格」の行に大幅に食い込んでいるが、ここは正す。(2) 9 ウ注2 参照。(3) L, K による。(4) 「第五格」の行、双行分に貼紙。元は「намъ, вамъ, имъ」<sub>予等<sub>ヲ</sub> 你等<sub>ヲ</sub> 彼等<sub>ヲ</sub></sub>とあって、単線にて抹消。京大本は貼紙も、元来の文字もなく、白紙。(5) 正：нами。(6) 正：О нихъ。

## 第二 Притяжательныя мѣсто[-]

1

именя<sup>(1)</sup>。司領代名ト云フハ凡テ事物ヲ司領

スル代名辞ナリ。即左ノ如シ。

	單負	復負	
第一	陽種 Мой, 吾 <sub>ヲ</sub> <sup>(2)</sup>	陰種 Моя,	中種 Мое, Мои.
第二	Моего, 吾 <sub>ノ</sub>	Моей, <sup>(3)</sup>	Моего, Моихъ.
第三	Моему, 吾 <sub>ニ</sub>	Моей,	Моему, Моимъ.

5

第四	Моего, 吾 <sub>オ</sub>	Мою,	Мое,	[Моих,] <sup>(4)</sup> Мои.	
第五	Мой, 吾 <sub>オ</sub>	Моя,	Мое[,]	Мои.	
第六	Моимъ, 吾 <sub>オ</sub> 、	Моєю,	Моимъ,	Моими.	10
第七	О моемъ, 吾 <sub>オ</sub> 、於 <sub>テ</sub> ,	О моей,	О моемъ,	О моихъ.」	(11 オ)

注 (1) 正：мѣстоименія. (2) 以下の和訳注はロシア語の格にひかれて、誤って格助詞等を対応させている。次表 твой 以下でも同様だが、いちいち指摘しない。(3) L, K : моя. -ей は許容形。(4) L, K による。

	單貞		復貞	1
第一 男	女	中		
твой, <sup>(1)</sup> 你ノ。ハ	твоя,	твое,	твои[.]	
第二 твоего, 你ノ。ノ	твоей, <sup>(2)</sup>	твоего,	твоихъ.	
第三 твоему. 你ノ。ニ	твоей,	твоему,	твоимъ.	5
第四 твоего, 你ノ。ヲ	твою,	твое,	твоихъ[, твои]. <sup>(3)</sup>	
第五 твой, 你ノ。	твоя,	твое,	твои.	
第六 твоиму, <sup>(4)</sup> 你ノ。ヨリ	твоею,	твоимъ,	твоими.	
第七 О твоёмъ, 你ノ。ニ於テ	О твоей,	О твоёмъ,	О твоихъ.」	(11 ウ)

注 (1) はじめ то- と書き, о を墨で抹消。京大本同じ。(2) L, K : твоя. -ей は許容形。(3) L, K による。(4) 正：твоимъ.

	單貞		復貞	1
第一 男	女	中		
его, 彼 <sub>ガ</sub> 、	ея,	онаго, <sup>(1)</sup> 彼 <sub>ガ</sub> 、	ихъ. 彼 <sub>ガ</sub> 等 <sub>、</sub>	



第二	его,	ся,	онаго,	ихъ.	
第三	его,	ся,	онаго,	ихъ,	
第四	его,	ся,	онаго,	ихъ.	5
第五	его,	ся,	онаго,	ихъ.	
第六	его,	ся,	онаго,	ихъ.	
第七	О его,	О ся,	Объ онаго,	Объ ихъ.	
		單負		復負	
第一	男 нашъ, <sup>(2)</sup> 我	女 наша,	中 наше,	наши.	10
第二	наше, <sup>(3)</sup> 我方	нашей, <sup>(4)</sup>	нашего,	нашихъ. 」(12 才)	

注 (1) ふつう его. ここでも оное の生格形を提示。10 才注 4 参照。(2) а は и のようにもみえるが а と翻刻。京大本明らかに а。(3) 正：нашего。(4) L, K：нашей。-ей は許容形。

第三 <sup>(1)</sup>	нашему,	нашей,	нашему,	нашимъ.	1
第四	нашего,	нашу,	наше,	нашихъ[, наши]. <sup>(2)</sup>	
第五	нашъ,	наша,	наше,	наши.	
第六	нашимъ,	нашего, <sup>(3)</sup>	нашимъ,	нашими.	
第七	О нашимъ, <sup>(4)</sup>	О нашей,	О нашемъ,	О нашихъ.	5
		單負		復負	
第一	вашъ, 汝。	ваша,	ваше,	ваши.	
第二	вашего, 汝。	вашей, <sup>(5)</sup>	вашего,	вашихъ.	
第三	вашему, 汝。	вашей, <sup>(6)</sup>	вашему,	вашихъ.	
第四	вашего, 汝。	вашу,	ваше,	[вашихъ,] <sup>(7)</sup> ваши.	10
第五	вашъ, 汝。	ваша,	ваше,	ваши. 」(12 ウ)	

注 (1) 「第三」の下に нашему とあるが、他と体裁をあわせる。(2) L, Kによる。  
 (3) 正 : нашею. (4) 正 : нашею. (5) L, K : вашей. -ей は許容形。(6) 正 :  
 вашей. (7) L, K による。

第六	вашимъ, 汝、	вашию, <sup>(1)</sup>	вашимъ,	вашими.	1
第七	О вашемъ, 汝、於、	О вашей,	О вашемъ,	О вашихъ.	
	單負		復負		
第一	男 Свой, 彼、	女 Своя,	中 Свое,	Свои.	
第二	Своего, 彼、	Своей, <sup>(2)</sup>	Своего,	Своихъ.	5
第三	Своему,	Своей,	Своему,	Своимъ.	
第四	Своего,	Свою,	Свое,	Своихъ [, свои]. <sup>(3)</sup>	
第五	Свой,	Своя,	Свое,	Свои.	
第六	Своимъ,	Своею,	Своимъ,	Своими.	
第七	О Своемъ,	О Своей,	О Своемъ,	О Своихъ.」 (13 才)	10

注 (1) 正 : вашей. (2) L, K : своей. -ей は許容形。(3) L, K による。

### 三 第

1

直 指 辞

Указательныя мѣстоименія.

ス即名ヲ或タ上ト<sup>(1)</sup>  
 左辞付ハルニ云  
 ニナス物人出フ  
 列リ代名名シハ

	單負		復負		
第一	男 Сей, 此、	女 Сія,	中 Сіе,	Сіи.	5
第二	Сего, 此、此、	Сей, <sup>(2)</sup>	Сего,	Сихъ.	
第三	Сему, 是、此、	Сей,	Сему,	Симъ.	

第四	Сего, 是,此,	Сею, <sup>(5)</sup>	Сіе,	Сихъ[, сіи]. <sup>(4)</sup>	
第五	Сей, 是,愛,	Сія,	Сіе,	Сіи.	
第六	Симъ, 是,,	Сею,	Симъ,	Сими.	10
第七	О Семъ, 於是	О Сей,	О Семъ.	О Сихъ.」(13 ウ)	

注 (1) たて書き和文の体裁は原本のまま。(2) L, K : сея. -ей は許容形。(3) 正 : сію。(4) L, K による。(5) L, K にこの格形の項なし。

	單負		復負		
第一	男 Этомъ, <sup>(1)</sup>	女 Эта,	中 Это,	Эти.	
第二	Этого, 此.	Этой, <sup>(2)</sup>	Этаго, <sup>(3)</sup>	Этахъ. <sup>(4)</sup>	
第三	Этому,	Этай, <sup>(5)</sup>	Этому,	Этамъ. <sup>(6)</sup>	
第四	Этого,	Эту,	Этого,	Этихъ.	
第五	Этотъ, <sup>(7)</sup>	Эта,	Это,	Эти.	
第六	Этимъ,	Этою,	Этимъ,	Эtimi.	
第七	Объ Этамъ, <sup>(8)</sup>	Объ Этой,	Объ Этомъ,	Объ Этихъ.	
	單負		復負		
第一	тотъ, 其,,	та,	то,	тѣ.	1
第二	того, 其,,	той <sup>(9)</sup> [, ] <sup>(10)</sup>	того,	тѣхъ.」(14 オ)	

注 (1) 正 : Этотъ。(2) В : ѣтыя и ѣтой。(3) 正 : Этого。(4) 正 : Этихъ。(5) 正 : Этой。(6) 正 : Эtimi。(7) L, K にこの格形の項なし。(8) 正 : Объ Этомъ。京大本も Объ Этамъ。(9) L, K : тоя, той。(10) 京大本コンマあり。

第三	тому, 其,,	той,	тому, <sup>(1)</sup>	тѣмъ.	1
第四	того, 其,,	ту,	то,	[тѣхъ, ] <sup>(2)</sup> тѣ.	

第五	тотъ, <sup>(3)</sup>	та,	те, <sup>(4)</sup>	тѣ.	
第六	тѣмъ,	тою, <sup>(5)</sup>	тѣмъ, <sup>(6)</sup>	тѣми.	
第七	О тѣмъ. <sup>(7)</sup>	О той,	О тому, <sup>(8)</sup>	О тѣмъ. <sup>(9)</sup>	5
	單 貞			復 貞	
第一	такой, 如此.	такая,	такое,	такіе__я.	
第二	такого,	такой,	такого,	такихъ.	
第三	такому,	такой,	такому,	такимъ.	
第四	такого,	такую,	такое,	такіе__я.	10
第五	такой,	такая,	такое,	такіе__я.」 (14 ウ)	

注 (1) はじめ тоиу と書き и を墨にて抹消し、 м と下書き訂正。京大本同じ。(2) L, K による。(3) L, K にこの項なし。(4) 正 : то。(5) L, K は тою, той。(6) 正 : тѣмъ。(7) 正 : О томъ。(8) 正 : О томъ。(9) 正 : О тѣхъ。

第六	такимъ,	такою,	такимъ,	такими.	1
第七	О такомъ,	О такой,	О такомъ,	О такихъ.	

貞由曰右ノ第四段復貞ノ辞ヲ列スル其辞ノ中ニ別ニヤノ

字ヲ附シタルハ陰種ノ辞ヲ付ス寸ニ用フルナリ。即陽中ノ二種ハ

如設 такіе, ト云ヒ陰種ノトキハ еヲヤニ代ヘテ 5

такія, ト云フナリ。以下亦同シ。

### 補 遺

	單 貞			復 貞	
第一	男 нѣкоторый, <sup>(3)</sup> 或、其	女 нѣкотория, <sup>(4)</sup>	中 нѣкоторое,	нѣкоторые__я.	
第二	нѣкотораго,	нѣкоторой, <sup>(5)</sup>	нѣкотораго,	нѣкоторыхъ.	10
第三	нѣкоторому, <sup>(6)</sup>	нѣкоторой, <sup>(7)</sup>	нѣкоторому,	нѣкоторымъ.」 (15 オ)	

注 (1)「第六」の文字の左上、冊子ののどの部分に н とあり。京大本なし。ここでは省略に従う。なおこの葉に昭和5年の新聞紙による附箋あり。(2) ロシア語は「第一」等の下に書かれているが、他の表とのかねあいから体裁変更。(3) cf. K: который, L: которой。(4) 正: нѣкоторая。(5) L, K: -ья. -ой は許容形。(6) はじめ -рый と書き -ый を墨で抹消し、下に -ому と訂正。京大本同じ。(7) はじめ -роя と書き墨で я を抹消し、その下に й と訂正。京大本ははじめ -рое と書き、е を消し й と下書きし訂正。

第四	нѣкотораго,	нѣкоторою, <sup>(1)</sup>	нѣкоторое,	нѣкоторыхъ [ , -е, -я ]. <sup>(2)</sup>	1
第五 <sup>(3)</sup>	нѣкоторый,	нѣкоторая, <sup>(4)</sup>	нѣкоторое,	нѣкоторые__я.	
第六	нѣкоторымъ,	нѣкоторою, <sup>(5)</sup>	нѣкоторымъ,	нѣкоторыми.	
第七	О нѣкоторомъ,	О нѣкоторой,	О нѣкоторомъ,	О нѣкоторыхъ.	
	單負			復負	5
第一	нѣкій, <sup>(6)</sup> 其一二	нѣкая,	нѣкое,	нѣкіе__я.	
第二	нѣкаго, 一	нѣкой,	нѣкого, <sup>(7)</sup>	нѣкихъ.	
第三	нѣкому,	нѣкой,	нѣкому,	нѣкимъ.	
第四	нѣкаго,	нѣкою, <sup>(8)</sup>	нѣкое,	нѣкихъ [ , -іе, -ія ].	
第五	нѣкій,	нѣкая,	нѣкое,	нѣкіе__я.	10
第六	нѣкимъ,	нѣкою, <sup>(9)</sup>	нѣкимъ,	нѣкими. ] (15 ウ)	

注 (1) 正: -ую。(2) L, K による。(3) L, K にこの格の項なし。(4) 正: -ая。(5) 正: -рою。(6) L, K によれば、кой は мой と同じ変化に従う。よって нѣкій の変化は男性生格以下は нѣкогого, -коему, -коего, -коимъ, -коемъ; 女性 нѣкоя, -кося, -коей, -кою, -кою, -коей; 中性 нѣкое, -коего, -коему, -кое, -коимъ, -коемъ; 複数 нѣкіе/-ія, -коихъ, -коимъ, -коихъ/-іе/-ія, -коими, -коихъ。以上が文語的な形態であろう。一方、男性の一部と特に女性形および複数形において、17 巻本アカデミー辞典が掲出する次のような形態も存在し、おそらくこちらが通行の形態だったのであろう。男性・中性・造格 нѣким; 女性 нѣкая, -коей/-кой, -коей/-кой, -кую, -коей/-кой, -коей/-кой; 複数 нѣкіе/-ія, -кихъ, -кимъ, -кихъ, -кими, -кихъ。したがって G 掲出のこの表においては、女性と複数形で大部分が後者の形態を載せていることになる。わずかに女性・対格と造格に нѣкою, нѣкою

と文語形が認められる。ただし、一方では、男性・中性の格形は、形容詞の変化に従った類推形であり、俗用であろうか。以下の注7・8・9は以上の前提のもとによる。(7) нѣкаго ка。(8) 文語形。通行形：нѣкую。(9) 文語形。通行形：нѣкоей/-кой。

第七	О нѣкомъ,	О нѣкой[ , ]	О нѣкомъ[ , ]	О нѣкихъ.	1
	單負		復負		
第一	男 иный, <sup>(1)</sup> 他。	女 иная,	中 иное,	иные__я.	
第二	инаго, <sup>(2)</sup>	иной, <sup>(3)</sup>	инаго, <sup>(4)</sup>	иныхъ.	
第三	иному,	иную, <sup>(5)</sup>	иному,	инымъ.	5
第四	инаго, <sup>(6)</sup>	иную,	иное,	иныхъ[ , -е, -я]. <sup>(7)</sup>	
第五 <sup>(8)</sup>	иный,	иная,	иное,	иные__я.	
第六	инымъ,	иною,	инымъ,	иными.	
第七	О иномъ,	О иной,	О иномъ,	О иныхъ.	
	單負		復負		10
第一	男 всякій, 皆。	女 всякая,	中 всякое,	всякіе__я.」(16才)	

注 (1) L: -ой, K: -ый. (2) L: -ого, K: -ого, -аго. (3) L, K: инья. инойは許容形。 (4) L, K: -ого. (5) 正: иной. (6) L: -ого, K: -аго. (7) L, Kによる。 (8) L, Kにこの格の項なし。

第二	всякаго, 皆,	всякой,	всякаго,	всякихъ.	1
第三	всякому,	всякой,	всякому,	всякимъ.	
第四	всякаго,	всякою, <sup>(1)</sup>	всякое,	всякихъ[ , -іе, -іа].	
第五	всякій,	всякая,	всякое,	всякіе__я.	
第六	всякимъ, <sup>(2)</sup>	всякою, <sup>(3)</sup>	всякимъ,	всякими.	5
第七	О всякомъ,	О всякой,	О всякомъ,	О всякихъ,	

因ニ云右ノ всякій ト云フ所ニ数々 всякъ ト  
 云フアリ。尤七轉格ニ因ニ端尾ヲ変スルヲ猶  
 右ノ всякій ノ例ニ倣フ。

		單負		復負	10
第一	протчій, <sup>(4)</sup> 外..他..	протчая,	тротчее,	протчіе__я.」 (16 ウ)	

注 (1) 正：всякую. (2) はじめ -комъ と書いたものを, о を消して墨で下に и と訂正。  
 京大本同じ. (3) 正：всякою. (4) 正：прочій. ただし, протч- と т を入れる綴  
 りも当時通行していたようで, L などにも見られる。以下いちいち指摘しない。

第二	протчаго,	протчей,	протчаго,	протчихъ.	1
第三	протчаму, <sup>(1)</sup>	протчей,	протчему,	протчимъ.	
第四	протчаго,	протчею, <sup>(2)</sup>	протчее,	протчихъ [ , -іе, -іа ].	
第五	протчій,	протчая,	протчее,	протчіе __я.	
第六	протчимъ,	протчаю, <sup>(3)</sup>	протчимъ,	протчими.	5
第七	О протчемъ,	О протчей,	О протчемъ,	протчихъ.	

		單負		復負	
第一	男 Самый, 自..自分..	女 Самая,	中 Самое,	Самые__я.	
第二	Самаго,	Самой [ , ]	Самаго,	Самыхъ.	
第三	Самому,	Самой,	Самому,	Самымъ.	10
第四	Самой, <sup>(4)</sup>	Самая, <sup>(5)</sup>	Самое,	Самыхъ [ , -е, -я ].」 (17 オ)	

注 (1) 正：-чему. (2) 正：-чую. (3) 正：-чею/-чей. (4) 正：Самаго. (5) 正：Самую.

第五	Самой, <sup>(1)</sup>	Самая,	Самое,	Самые__я.	1
第六	Самымъ,	Самою,	Самымъ,	Самыми.	
第七	О Самомъ,	О Самой,	О Самомъ,	О Самыхъ.	

因ニ云右ノ Самый ト云ヘル代名辞ハ一辞離シテ用

フルヲナシ。毎ニ他ノ Указательный мѣстоим-

5

нія<sup>(2)</sup>直指辞 ト連用スルナリ。如設 тотъ Сам-

ый, 是レ自ラ[, ] та Самая, 同上[, ] Это

Самое. 同上 ト云ヘルカ如シ。斯ノ如クノ二辞相

連子テ точино<sup>(3)</sup>. 必。固。疑ナド云フ義ト云フ義ニナルヲ有り。

即如設 Этотъ ли чѣловѣкъ<sup>(4)</sup>

10

вась обидѣль? 你ニ仇セシ人ハ是レ乎。」(17 ウ)

---

注 (1) あるいは Самый. (2) 正 : Указательныя мѣстоименія. (3) 正 : точно. (4) 正 : челоѣкъ

---

ト云フ問語アリ。是ニ答フルニ Онъ Самый. ト云ヒ

1

又 Онъ точно. 共ニ彼疑又彼同ト云フ義 ト云フテモ同意ノ語ナリ。

第一 все, 皆 悉

此代<sup>(1)</sup>名辞ニハ種類

第二 всего,

並ニ單復ノ差別ナシ。故ニ  
諸物諸事ニ用フル也。

第三 всему,

如設

5

第四 все,

Я все знаю. 我悉ク知ル

第五 все,

Я всего боюсь. 予悉クヲ恐ル

第六 всемъ,<sup>(2)</sup>

Я всему вѣрю. 予悉ク信スト云ヘルガ如シ。

第七 О всемъ.

單負

復負

10

第一 男  
весь,  
皆ハ

女  
вся,

中  
все,

всѣхъ.」(18 オ)

---

注 (1) はじめ「伐」と書き一部消して「代」と訂正。 (2) 正 : всѣмъ.

---

第二 всего,

всей,

всего[, ]

всѣхъ.

1



第三	всему,	всей,	всему,	всѣмъ.	
第四	всего,	всю,	все,	всѣхъ[ , всѣ].	
第五	весь,	вся,	все,	всѣ.	
第六	всемъ, <sup>(1)</sup>	всею,	всемъ, <sup>(1)</sup>	всѣми.	5
第七	О всемъ,	О всей,	О всемъ,	О всѣхъ.	
		單負		復負	
第一	другій, 他.	другая,	другое,	другіе__я.	
第二	другаго,	другой,	другаго,	другихъ.	
第三	другому,	другой,	другому, <sup>(2)</sup>	другимъ.	10
第四	другаго,	другую,	другое,	другихъ[ , -іе, -ія].」(18ウ)	

注 (1) 正：всѣмъ. (2) はじめ -омъ と書き、語末の ъ を上からなぞって у に訂正。  
京大本同じ。

第五	другій,	другая,	другое,	другіе__я.	1
第六	другимъ,	другою,	другимъ,	другими.	
第七	О другомъ,	О другой,	О другомъ,	О другихъ.	

#### 四 第

Вопросительныя мѣстоименія. 5

問代名辞 ト云フハ即人名物称ヲ尋問スル時ニ用フル

代名辞也。左ニ出スカ如シ。

第一	Кто, 誰.	Что.	此代名ニハ種數	
第二	Кого, 誰.	Чего.	單復ノ別ナシ。唯七格ニ	
第三	Кому,	Чему.	因テ轉移アル而已也。	10

第四 Кого, Что. 」 (19 オ)

第五	Кто,	Что.		1
第六	Кѣмъ,	Чѣмъ.		
第七	О Комъ,	О Четь. <sup>(1)</sup>		
	單負		復負	
第一	Какой, 何.	Какая,	Какое,	Какіе__я.
第二	Какаго,	Какой,	Какаго,	Какихъ.
第三	Какому,	Какой,	Какому,	Какимъ.
第四	Какаго,	Какую,	Какое,	Какіе__я[, -ихъ].
第五 <sup>(2)</sup>				
第六	Какимъ.	Какою,	Какимъ,	Какиму. <sup>(3)</sup>
第七	О Какому, <sup>(4)</sup>	О Какой,	О Какомъ,	О Какихъ. 」 (19 ウ)

注 (1) 正：О Чемъ. (2) この欄空白。京大本同じ。 (3) 正：Какими. (4) 正：О Какомъ. ъ の筆語体を誤認して -y としたものだろう。この写本に頻出する。

	單負		復負	1
第一	Которой, <sup>(1)</sup> 是.	Которая,	Которое,	Которые__я.
第二	Котораго,	Которой, <sup>(2)</sup>	Котораго,	Которыхъ.
第三	Которому,	Которой,	Которому,	Которымъ.
第四	Котораго,	Которою, <sup>(3)</sup>	Которое,	Которые__я[, -ыхъ]. <sup>(4)</sup>
第五 <sup>(5)</sup>	Каторой,	Которая,	Которое,	Которые__я.
第六	Которымъ,	Которою,	Которымъ,	Которымъ. <sup>(6)</sup>

## 第七 О Которомъ, О Которой, О Которомъ, О Которыхъ.

Относительныя мѣстоименія.

再呼辞ト云フハ上ニ云タル人名或ハ物名ヲ受ケル代名 10

「人ヲ 是又事 此」<sup>(7)</sup>  
 辞ナリ。如設 Человѣкъ, Которой Это」(20 オ)  
 「三 所ヲ 二」<sup>(7)</sup>

注 (1) L: -ой, K: -ый. (2) L, K: -ья. -ой は許容形. (3) 正: -ую. (4) L, K: による. (5) L, K にこの格の欄なし. (6) 正: -ыми. (7) 京大本も朱筆。

「言 予 知」<sup>(2)</sup>  
 Сказель<sup>(1)</sup>, мнѣ знакомъ[.] ト云フ<sup>(3)</sup>タル成語 1  
 「-」<sup>(2)</sup>

中ノ Которой 是ナリ。此ヲ Относительныя

мѣстоименія ト云フナリ。前ノ Вопросите-

льныя мѣстоименія 問代名辞 ノ中ニ出セル

Что, Которой, Каковой. 等ノ辞モ此再 5

呼辞ニ用フルナリ。轉移スルノ例モ亦同シ。此外ノ再呼辞ヲ

左<sup>(4)</sup>ニ出ス。第一 Кой,<sup>(5)</sup> Коя, Кое, Кои.  
此い第二 Кого,<sup>(6)</sup> Коей,<sup>(7)</sup> Коего, Коихъ. 10第三 Коему,<sup>(8)</sup> Коей, Коему, Коимъ。」(20 ウ)

注 (1) 正: Сказаль. (2) 京大本も朱筆. (3) 正: 「云ヒ」. (4) ママ。原語から独立して和文縦書きを前提とする訳語。以下にも現われるがいちいち指摘しない。  
 (5) L, K に従えば, кой は мой と同じ変化。cf. 15 ウの注 6. したがって, кой の男性・生格以下は коего, коему, коего, кой, коимъ, коемъ; 女性 коя, коея, коей, кою, коя, коєю, коей; 中性 кое, коего, коему, кое, кое, коимъ, коемъ; 複数 кои, коихъ, коимъ, коихъ/кои, кои, коими, коихъ。なお 17 巻本アカデミー辞典がのせる別形は次の通り。女・主 кая/коя, 女・生 коей, 女・対 кою/кую。よって, G のこの表は, ほぼ L, K に従っているとみなせる。この前提で注 4, 5 および 21 オ注 2 は付した。 (6) 正: Коего. (7) L, K кося. Коей は許容形. (8) はじめ Кому と書き о と м の間にカギを用いて е を書き加え, 訂正。京大本同じ。

第四	Коего,	Кою,	Кое,	[Коихъ,] <sup>(1)</sup> Кои.	1
第五	Кой,	Коя,	Кое,	Кои.	
第六	Коимъ,	Коею,	Коимъ,	Коимъ. <sup>(2)</sup>	
第七	О Коемъ,	О Коей,	О Коемъ,	О Коихъ.	

## 六 第

5

Возвратныя мѣстоименія.

歸應辞ト云フハ事ヲナシ物ヲ云フ其人ヲ再ヒ指ス代

名辞ナリ。如設 <sup>「予 希 自 善」<sup>(3)</sup></sup> Я желаю себѣ добро.<sup>(4)</sup>又 <sup>「彼 欲 自」<sup>(3)</sup></sup> Онъ хочетъ себя умертвить<sup>(5)</sup> [.]

ト云ヘル語中ノ себѣ[, ]себя 等ノ辞是也。即チ

10

左ニ列ス。

」(21オ)

注 (1) L, K による。(2) 正：Конми。(3) 京大本も朱筆。(4) 正：добра。(5) この語の上に「死」と鉛筆で加筆。京大本同じ。

	單 負		復 負		
第一	男 Самъ, 自分。	女 Сама,	中 Само,	Сами.	1
第二	Самаго,	Самой, <sup>(1)</sup>	Самаго,	Самихъ.	
第三	Самому,	Самой,	Самому,	Самимъ.	
第四	Самаго,	Самою, <sup>(2)</sup>	Само, <sup>(3)</sup>	Самихъ. <sup>(4)</sup>	5
第五 <sup>(5)</sup>	Самъ,	Сама,	Само,	Сами.	
第六	Самимъ. <sup>(6)</sup>	Самою,	Самимъ, <sup>(6)</sup>	Самими.	
第七	О Самомъ,	О Самой,	О Самомъ,	О Самихъ.	

第二 此代<sup>(7)</sup>名辞ニハ負數種類等ノ差別ナシ。第三 Себѣ, 如設 <sup>「陽 彼男 不 愛 自」<sup>(8)</sup></sup> Онъ не бережетъ себя.

10

第四 Себя. <sup>(9)</sup>「陰 彼女、不 愛 自」<sup>(8)</sup>  
 第五第六 Оне не бережить себя. ト  
 第七 「復 彼等 不 愛 自」<sup>(8)</sup>

云フテ себяノ辞轉移スルヲナシ。」(21 ウ)

注 (1) L : самыя, K : самыя, -ой. (2) L : самую, K : самою. (3) はじめ «Самомъ,» と書いたのち -мъ を墨で消して «Само,» と訂正。京大本同じ。K : самое. K, 1831 年版 : сагаго. (4) 語末 -хъ になぞりあり。京大本 Самихъ. (5) L ではこの格は表示するが、形態の欄はすべて <—> である。K はこの格の名も欄もなし。 (6) L : самимъ に対し, K : самымъ. (7) はじめ「伐」と書き、一部を消して「代」と訂正。京大本も同じ。 (8) 京大本も朱筆。 (9) себя については, L, K とともに注で述べて表にしていないが、もう 1 形 собою を文例中に示す。G の表の「第一」から「第五」の格の表示は形骸化してしまっていて、「第三」「第四」のみに該当する形態が示されているが、この格の表示を生かせば「第二」に себя, 「第六」に Собою, 「第七」に О Себѣ とあってほしいところである。B は生格以下 себя, себѣ, себя, собою и собой, о себѣ.

原名ト云フ  
 [O]<sup>(1)</sup> Глаголь. 三 第 篇 辞 働

1

我魯西亞國語ニテハ Глаголь 働辞ヲ 六種ニ分ツ。

「他働辞」<sup>(3)</sup>  
 第一種 Дѣйствительные глаголы.  
 和欄是ヲ Werkend werk voord<sup>(5)</sup>ト云フ

是作業ヲ云ヒ顯ハス辞ナル故此辞アル寸ハ句中ニ

винительномъ падежѣ<sup>(6)</sup> 第四格ニ當ル

5

「神 你ヲ 愛ス」<sup>(7)</sup>  
 辞ヲ生スル也。如設 Богъ тебя любить<sup>(8)</sup>.

「運命 予ヲ 亡ス」<sup>(7)</sup>  
 Судьба меня гонить<sup>(9)</sup>. ト云フ成語ノ中ノ

「愛ス 亡ス」<sup>(7)</sup>  
 любить<sup>(10)</sup>, гонить<sup>(11)</sup>. 是所謂他働辞

「你ヲ 予ヲ」<sup>(7)</sup>  
 ниシテ тебя, Меня. ハ第四格ニ當ル辞也。

「被働辞」<sup>(7)</sup>  
 第二種 Страдательные глаголы.  
 和欄 lijden de werkvoord<sup>(12)</sup>ト云フ

10

是他人ノ所業ヲ己ニ被ル所ヲ云ヒ顯ハス働辞也。」(22 オ)

注 (1) 巻 1. 23 オの《О степеняхъ уравниения.》の前例による補い。L : О глаголь, K : О глаголахъ. (2) 朱線。京大本も同じ。 (3) 京大本も同じ。 (4) 正 : Дѣйствительные. (5) 正 : werkend werkwoord. (6) 正 : винительный падежъ. вините- の т の筆

記体を p のようにはじめ伸ばして書いたものを、下部分のみ鉛筆で消しかつ上に線を加えて、r と訂正。京大本も同じ。(7) 京大本も朱筆。(8) 正: любить. 語末の ь になぞりあり。(9) 正: гонить. ь になぞりあり。京大本 <гонить>。(10) 正: любить. 語末の ь を鉛筆で ь に訂正。京大本も同じ。(11) 正: гонить. 語末の ь を鉛筆で ь に訂正。京大本同じ。(12) 正: lijdend werkwoord.

故ニ先ニ云フ人或ハ事ハ第一格トナリ後ニ出ス事ヲ為ス者ハ 1

第六格ノ<sup>(1)</sup>辞トナル也。如設 Ты есть любимъ

神ヨリ<sup>(2)</sup> 予ハサル亡運

богомъ. 又 Я есмь гонимъ Су-

命ヨリ<sup>(2)</sup> 按ニ天ヨリ亡サルト云フ意

дью. ト云フ語有り。此中ノ есть любимъ,

又 есмь гонимъ. ノ辞即被働辞也。 5

但此 есть<sup>(3)</sup>, есмь ノ働辞ハ通例常話

共ニ被ラルノ義

及ヒ書翰等ニハ畧スル也<sup>(4)</sup>。

第三種 Срѣдніе глаголы. ト云フ。是

蘭

onzijdig Werk woord.<sup>(5)</sup> ト云フ

作業及ヒ被働ヲ云フ辞ニ非ス。唯働靜所在ヲ云ヒ顯ス辞ナリ。

故ニ此辞ノ後ニ七轉格ノ中ニ當ル辞有ルヲナシ。如設 10

「生ク 歩ム」<sup>(2)</sup> 「予 歩ム」<sup>(2)</sup>

Я живу<sup>(6)</sup>, Я хожу. ト云ル語中ノ」(22 ウ)

注 (1) 「ノ」の前に1字抹消。京大本なし。(2) 京大本も朱筆。(3) 京大本 <, > なし。(4) L, K に受動は受動分詞と есмь あるいは бываю から作られる由が記される。よって、第1の例文は Ты еси が期待されるが, есть も可か。есмь, еси, есмы, есте については L は用いられずと, K は есть, суть も含めてスラヴ語すなわち教会スラヴ語に於いて用いられる, とする。(5) 正: onzijdig werkwoord. (6) はじめ жаву と а を書き, この文字の上部を朱で抹消し, живу とする。京大本同じ。

「生ク 歩ム」<sup>(1)</sup>  
живу, хожу. 是也。 1

第四種 Возвратные глаголы.

蘭

Wederkurige Werkwoord.<sup>(2)</sup> ト云フ

是為ス所ノ作業再ヒ其事或ハ其者ニ係ルヲ云ヒ顯ハス働辞ニ

他動辞ニ ся ノ字ヲ尾シタル者也。如設 Я

取上ル 自ラ<sup>(1)</sup> 予 自ラ取上ル<sup>(1)</sup>  
поднимаю себя, ト云フ所ニ Я подни-

маюся<sup>(3)</sup> [. ] ト云フ。此 поднимаюся<sup>(4)(5)</sup> 是也。 5

第五種 「兩 動 辞」<sup>(1)</sup>  
Взаимные <sup>(5)</sup> глаголы.  
強テ Weder hoorig werkwoord<sup>(7)</sup>ト云フ

是為ス所ノ業直ニ己レニ及フヲ云フ動辞也。如設「吾  
打合フ」<sup>(1)</sup>、「彼」口戦ス<sup>(1)</sup>  
деруся<sup>(8)</sup>, Онъ бранится. ト云ヘル。此ノ

деруся<sup>(8)</sup>, бранится. 之類是也。

10

第六種 Общие глаголы. 是所謂「(23 オ)  
「普 働 辞」<sup>(1)</sup>

注 (1) 京大本も朱筆。 (2) 正: wederkerig werkwoord. (3) はじめ -маются と書いて τ を抹消し, さらに ю を鉛筆で抹消し, а の右上に斜線をひいて τ を書き加える。京大本同じ。 -маюся を訂正形とみる。そうであれば正: -маюсь. (4) 朱線。京大本も同じ。 (5) はじめ поднимаюся と書いたものを ю を鉛筆で抹消し, その下に τ と書いている。京大本同じ。 正: -маюсь. (6) はじめ Взаим- と書いたものを, ы を墨で抹消し, カギを用いて и と下に訂正。京大本同じ。 (7) 正: wederhoorig werkwoord. 現代語 wederhorig 〜. (8) 正: дерусь.

Срѣдніе<sup>(1)</sup> глаголы. 自働辞ノ一種ニノ

1

動静ヲ云ヒ顯ス辞ナリ。但シ是ハ外ニ相對スル人或ハ事

コレ無キ時ハ云ハサル辞也。如設「予 拜スル」<sup>(3)</sup>  
Я<sup>(2)</sup> кланяюсь.

之類是也。

凡魯西亞語ニ Помогательные глагола<sup>(4)</sup>. ト

5

云フ者ハ「有, 也, 為」<sup>(3)</sup>「有, 持, 有」<sup>(3)</sup>  
быть, то имѣть. ノ二辞也。此ノ

辞ヲ用テ動辞ノ時世「三世ヲ云」<sup>(3)</sup>ヲ云ヒ顯ス也。故ニ是ニ助辞ノ

名有リ。如設「我 ン 生イキ」<sup>(3)</sup>  
Я буду жить. ト云ヘルカ如シ。  
按ニ是未來也

但シ此 имѣть ト云フ助辞ハ文章或ハ尊称ノ

談中ニ用ヒス。唯命令ノ語法中ニ用ルノミ也。

10

○<sup>(5)</sup>又動辞ヲ七種ニ分ツ有リ。」(23 ウ)

注 (1) 正: Средніе. (2) 18 世紀風の筆記体による。 (3) 京大本も同じく朱筆。 (4) -а になぞり。京大本 -ы. 正: глаголы. (5) 朱丸。京大本同じ。

其 一 Личные глаголы. 『係人動辞』<sup>(1)</sup>

1

其二	Безличные глаголы. 『不係人全』 <sup>(1)</sup>	
其三	Правильные глаголы. 『同轉動辞』 <sup>(1)</sup>	
其四	Не правиные <sup>(2)</sup> глаголы. 『不同轉全』 <sup>(1)</sup>	
其五	Полные глаголы. 『満備動辞』 <sup>(1)</sup>	5
其六	Не полные <sup>(3)</sup> глаголы. 『不足全』 <sup>(1)</sup>	
其七	Изобилующіе глаголы. 『多時全』 <sup>(1)</sup>	
『一』 <sup>(1)</sup>	Личные глаголы. 係人動辞 ハ	
	Лицами <sup>(4)</sup> мѣстоименія. 人代名辞 ノ	
	三人 『予你彼ノ三人ヲ云フ』 <sup>(1)</sup> 共ニ用フ可キ動辞是也。	10
『二』 <sup>(1)</sup>	безличные глаголы. 不係人動辞 ハ」(24 オ)	

---

注 (1) 正：京大本も朱筆。(2) 正：Неправильные。(3) 正：Неполные。(4) 正：Личныя.

---

	人ニ用ヒサル動辞ニノ此類語甚シ <sup>(1)</sup> 。即 <i>надлежить</i> <sup>(2)</sup> ,	1
	довлѣтъ. 共ニ属スル又須クノ意ナリ ト云ヘルカ如キ類是也。	
『三』 <sup>(3)</sup>	правильные глаголы. 同轉動辞 ハ	
	他ノ諸辞ト其轉格 <sup>(4)</sup> ヲ同ウスル動辞是也。	
『四』 <sup>(3)</sup>	неправильные глаголы. 不同轉動辞 ハ	5
	他辞ノ轉移ニ係ラス一箇ノ轉變ヲナス動辞也。	
『五』 <sup>(3)</sup>	полные глаголы. 満備動辞 ハ運用スル寸ニ	
	自ラ轉格單復ノ備リタル動辞也。	
『六』 <sup>(3)</sup>	Не полные <sup>(5)</sup> глаголы. 不轉動辞 ハ	
	其出セル所而已ニテ前句ニ應セサル動辞也。	10
『七』 <sup>(3)</sup>	Изобилующіе глаголы. 多時動辞 ハ」(24 ウ)	

---

注 (1) はじめ「少シ」とあって、「少」を朱で抹消。京大本同じ。(2) жの筆記体 18



世紀風。京大本同じ。(3) この位置で朱筆。京大本同じ。(4) 正：「轉移」。(5) 正：Неполные。

通例動辞ニ備リタル時世ヨリハ尚多ク時世ノ<sup>(1)</sup>備リタル動辞也。 1

右件々左ニ出ス所ノ辨スルヲ以テ尚明カニ會得ス可シ。

凡動辞ハ布置法。<sup>(2)</sup> 爾我彼。<sup>(2)</sup> 單復,<sup>(3)</sup> 種類,<sup>(3)</sup> 及ヒ時世

等ニ因テ轉移スル也。此 運用法<sup>(4)</sup>ヲ名ケテ Спряжение ト云フ。

一 其 5

Наклонение. 布置法<sup>(4)</sup>ハ語ヲ布置ノ文ヲ成スノ諸

體法也。我魯西亞語ニハ是ニ四法有リ。如左。

第一 наклонение изъявительное.

直說法<sup>(4)</sup>ト云フ。是動辞ヲ以テ趣意ヲ決斷治定ノ

云ッ寸ノ法也。如設 Я Ъмь, 『我食ッ』<sup>(5)</sup> 10

Я Ъль, 『我食ッタ』<sup>(5)</sup>ト云ルガ如シ。」(25 オ)

注 (1)「時世ノ」は「多ク」と「備リ」の間にカギを用いて上方より縦書きで挿入訂正。京大本も同じ。(2) 朱読点。京大本同じ。(3) 朱句点。京大本同じ。(4) 朱筆囲み。京大本同じ。(5) 京大本も朱筆。

第二 наклонение сослагательное. 1

承起法<sup>(1)</sup>ト云フ。是動辞ヲ以テ作業ノ未タ決定成就

セサル寸ニ云フ法也。但シ魯西亞語ニテハ此承起法ニ

於ケルモ右ノ直說法ニ於ケルモ諸辞ヲ配スルニ少シモ

異ナルヲナシ。然レモ此承起法ノ文ニハ必其首メニ Союзь<sup>【助辞】<sup>(2)</sup></sup> 5

有リ。是直說法ト異ル所ナリ。如設 若モシ セバ  
Если бы  
予 食シタリ 則、ンナシリザラア<sup>(3)</sup> 空 心<sup>(2)</sup>

Я \_ Ъль, то не былъ бы голоде-  
—<sup>(2)</sup>

нь, 若シ予食シタリセバ則空心アラザリシナント

云ヘルガ如シ。即上下ノ二句ヲ以テ語ヲナシタリ。故ニ此ノ

法ノ語ハ毎々二法ヲ備フ。 10

第三 **наклонение Повелительное.**<sup>(4)</sup>」(25 ウ)

注 (1) 朱筆囲み。京大本同じ。(2) 京大本も朱筆。(3) 京大本「タラザリシナン」。  
(4) はじめ пивельтельное と書きすべて朱筆で、第1字の п に大文字の飾りを加え、第2字の и と第6字の ь を抹消し、それぞれ下に о と и を書いて訂正。京大本も同じ。

**使令法**<sup>(1)</sup> ト云フ。是ハ物ヲ請ヒ或ハ事ノ令命ヲ下ス寸ノ文體ナリ。 1

如設 иди, 『行ケ』<sup>(2)</sup> идите, 『諸行』<sup>(2)</sup>  
諸疑<sup>(3)</sup>

кушай, 『食ヘ』<sup>(2)</sup> кушайте 『食シタマヘ』<sup>(2)</sup>ト

云ヘルガ如シ。

第四 **наклонение неопредѣленное**<sup>(4)</sup>. 5

**不定法**<sup>(1)</sup> ト云フ。是ハ心ニ決セスノ為ントスル所ノ業或ハ人ニ

任セラル、ト或ハ事ノ動靜ヲ云ヒ或ハ人ヲ定メズ又

時ヲ限ラスシテ云フ時ノ文體也。如設

идти<sup>(5)</sup>, 『行ン』<sup>(2)</sup> кушать 『食ン』<sup>(2)</sup> ナド云ヘルガ

如モ是也。 10

二 其<sup>(6)</sup> 」(26 オ)

注 (1) 朱筆囲み。京大本も同じ。(2) 京大本も朱筆。(3) 上方朱筆の「諸行」の「諸」をこの注は「疑フラクハ請カ」とするが、「諸行」は2人称複数命令法の〈複数〉を「諸」で表わしたものと考えられ、「諸行」で可。(4) L, Kともにここでの術語は неокончательное を用いている。неопредѣленное の術語は L では время 中の一用語として用いる(ただし同じ箇所を K は несововершенное)。一方、帝室アカデミー第二部会の教会スラブ語ロシア語辞典、1847 では逆で、неопредѣленное を「不定詞」、неокончательное を время の一用語として規定している。G は неопредѣленное の術語をここのみならず、время の項でも неокончательное の術語とともに用いている。参照：27 ウの注 5。(5) 正：идти。(6) 他の文字より大きめ。京大本同じ。

[O]<sup>(1)</sup> Лиць<sup>(2)</sup>. **爾我彼**<sup>(3)</sup> ハ即尔我彼ノ三人ナリ。 1

詳ニ人代名<sup>(4)</sup> 辞ノ條ニ辨スルカ如シ。此ノ人代名辞ニ

附スル動辞ニ或ハ轉移スルト有リ或ハ轉移セサルト有リ。

如設

Я пишу, 我書ク                      Я писалъ. 書タ                      5

ты пишешь, 爾書ク                      ты писалъ. 書タ

Онъ пишешь<sup>(5)</sup>, 彼書ク                      Онъ писалъ. 書タ

三      其

[O]<sup>(1)</sup> Числѣ. 單復<sup>(3)</sup>ハ動辭カ名辭ノ單復ノ

為メニ轉移スルヲ云フ也。即左ニ出ス例ノ如シ。                      10

Я читаю, 我讀ム                      Я читалъ. 讀タ」(26 ウ)

注 (1) 卷 1. 23 オの前例による。(2) 正: Лицѣ. (3) 朱筆囲み。京大本も同じ。(4) はじめ「名ノ」と書き「ノ」を墨で抹消。京大本同じ。(5) 正: писать.

мы Читаемъ,                      мы Читали.                      1  
我等      讀ム                      我等      讀,

ты Читаешь<sup>(1)</sup>,                      ты Читалъ.  
你      讀ム                      你      讀,

вы Читаете,                      вы Читали.  
你等      讀ム                      你等      讀,

Онъ Читаешь,                      Онъ Читалъ.  
彼      讀ム                      彼      讀,

Они Читаютъ,                      Они Читали.                      5  
彼等      讀ム                      彼等      讀,

四                      第<sup>(2)</sup>

[O]<sup>(3)</sup> Родѣ<sup>(4)</sup>. 種類<sup>(5)</sup>ト云フモ亦動辭名辭ノ種類ニ因テ  
前・群・ヲ

轉移スルヲ有ルヲ云フ也。又是ニ依テ少モ轉移セサルヲ有リ。即左ノ如シ。

Онъ несется,                      Онъ носился<sup>(6)</sup>.  
彼男ハ      流ム                      彼男ハ      流,

Она несется,                      Она носилася<sup>(6)</sup>.                      10  
彼女ハ      流ム                      彼女ハ      流,

Оно несется,                      Оно носилось<sup>(6)</sup>.」(27 オ)  
彼者ハ      流ム                      彼者ハ      流,

注 (1) 正: Читаешь. (2) 正: 「其」。 (3) 卷 1. 23 オの前例による。(4) 正: Родѣ.  
(5) 朱筆囲み。京大本も同じ。(6) 左の動詞と同じ定動詞の нестись と考えれば  
正はそれぞれ неся, неслась, неслось. нестись の不定動詞 носиться を想定して  
いるのであれば、女性・中性の正はそれぞれ носилась, носилось. родѣ で L, K  
が問題としているのは過去形での男・女・中性形の事。G はこれを問題としなが  
らも, онъ, она, оно が主語でも現在形の場合は「是ニ依テ少モ轉移セサルヲ」  
になるとしている。教育的配慮か。

## 五 其

1

[O]<sup>(1)</sup> Время<sup>(2)</sup>, [時世]<sup>(3)</sup> ト云フモ亦動辭ノ時世ニ  
 「現世過去未來ヲ云」<sup>(4)</sup>  
 因テ轉移スルヲ云フ也。即 правильные гл-

аголы. 同轉動辭 ト полные глаголы.

満備動辭ニハ 八時世<sup>(5)</sup>ニ因テ動辭ノ轉例ヲ出ス。

5

第一 настоящее время. [現在]<sup>(3)</sup>

是今業ヲナシタル時ナリ。Я сижу, Я пишу.  
 我坐, 我書。

第二 прошедшее не определенное<sup>(6)</sup>

время. [過去不定]<sup>(3)</sup> 是既ニ發スレテ事

成ラズ又其時世ヲモ云ハス只汎ク云フ時也。

10

Я сидѣлъ, 我座タ Я писалъ. 我書タ」(27 ウ)

注 (1) 卷1.23 オの前例による。(2) 正: Времени。(3) 朱筆囲み。京大本同じ。(4) 京大本も朱筆。(5) 28 ウではさらに「二時有り」としているから、計10時世。L, Kも10時制で数は一致するが、術語がことなる。Lは1) настоящее; 2) прошедшее неопределенное; 3) прошедшее однократное; 4) давно прошедшее первое; 5) давно прошедшее второе; 6) давно прошедшее третье; 7) будущее неопределенное; 8) будущее однократное; 9) прошедшее совершенное; 10) будущее совершенное。Kはこれらのうち2) に対してのみ прошедшее несовершенное と別の術語を用いるが、他はすべて一致する。すなわち現在1, 過去3, 大過去3, 未来3。これに対しGは現在1, 過去5, 大過去1, 未来3とする: ① настоящее время (現在); ② прошедшее неопределенное в. (過去不定), ③ прошедшее совершенное в. (過去), ④ прошедшее однократное в. (過去一回時), ⑤ прошедшее неоднократное в. (過去数回時), ⑥ прошедшее неокончанное время (過去不成); ⑦ давно прошедшее время (大過去); ⑧ будущее неопределенное в. (未来不定), ⑨ будущее однократное в. (未来一回時), ⑩ будущее совершенное в. (未来)。例示する動詞の形態からみて、GはLの大過去のうち4) を⑤「過去数回時に」とし、5) は採用せず、6) を⑦大過去として残し、さらに過去に⑥ 過去不成を新しく加える。(6) 正: неопределенное。

第三<sup>(1)</sup> прошедшее совершенное время.

1

[過去]<sup>(2)</sup> 是事ヲ成就シタルノ時也。

Я сѣлъ<sup>(3)</sup>, 我座タ Я написалъ. 我書タ

第四 прошедшее однократное время.

過去一回時<sup>(2)</sup> 是既ニ只一回有タルノ時也<sup>(4)</sup>。

5

Я посидѣль, Я пописаль.  
我一回座セリ 我一回書セリ

第五 прошедшее не однократное<sup>(5)</sup> время.

過去数回時<sup>(2)</sup> 是嘗テ事ノ数回有タルノ時也。

Я Сиживаль, Я писываль.  
我 数回時座セリ 我 数回時書セリ

第六 будущее неопредѣленное время.

10

未来不定<sup>(2)</sup> 是事始ラントスレモ模様ノ分ラサルノ時也。」(28 オ)

注 (1)「第」と「三」の間に1字墨で抹消。京大本同じ。(2) 朱筆囲み。京大本同じ。  
(3) сѣсть は сидѣть の対応の完了体ではなく、例としてやや不適切。ただし帝室  
アカデミー第二部会の教会スラブ語ロシア語辞典では сидѣть の項 сѣсть も併記  
する。(4) 次の行の例は不適切。L, K は -нуть の動詞で例示する。G はこの項で  
通して用いた例語 сидѣть に逆に制約されたか。(5) 正：неоднократное。

Я буду сидѣть, Я буду писать.  
我座セン 我 書セン

1

第七 будущее однократное время.

未来一回時<sup>(1)</sup> 是将来ニ事只一回

有ラントスルノ時也<sup>(2)</sup>。Я посижу, Я попишу.  
我一回座セン 我一回書セン

第八 будущее совершенное время.

5

未来<sup>(1)</sup> 是事始ラントシテ其事良ク果サント見ユルノ時也。

Я сяду<sup>(3)</sup>, Я напишу.  
我 坐セン 我 書セン

右諸時世ノ外ニ我魯西亞國語ノ法ニハ尚

二時有リ。即是ヲ左ニ附ス。

其一 прошедшее неокончанное

10

время. 過去不成<sup>(1)</sup> 是事ハ既ニ始リタレモ未タ」(28 ウ)

注 (1) 朱筆囲み。京大本同じ。(2) 以下の例は不適切。L, K 共に -нуть 動詞で例示。  
28 オ注4 参照。(3) 28 オ注3 参照。

果ッサルノ時也。

1

其  
二 Я сѣлъ было, Я писалъ было.  
我 既ニ座ニアリ 我 既ニ事始タリ  
давно прошедшее время.

大過去<sup>(1)</sup> 是上古ニ事ノ發シタルノ時也。

Я Сиживаль бывало.  
我 古座シタルヲアリ

5

Я писываль было.<sup>(2)</sup> (29 オ)  
我 古書シタルヲアリ

注 (1) 朱筆囲み。京大本も同じ。(2) 正: бываю.

[O]<sup>(1)</sup> <sup>原名</sup> причастіи[.] 四 第 篇 辞 動 分

1

[O]<sup>(1)</sup> Причастіи. 分動辞<sup>(2)</sup> ハ皆動辞ヨリ

轉シタル辞ニノ配置スル處モ亦同シ。故ニ動辞ノ所ニ  
用ル也。

凡 причастіе. 分動辞 ハ代名辞ト

5

動辞ト連用ル寸ニ其動辞ノ代ニ用ル也。如設

「人 所 我  
Человѣкъ, которой мнѣ

是, 語,,, 其名」<sup>(3)</sup>

это сказаль, называется N:

我ニ是ヲ語リタル所ノ人ハ何某ト云フ○斯ノ如ク

代名辞ト動辞ト相離シタルヲ分動辞ヲ以テ

10

連合スル也。左ノ如シ。」(29 ウ)

注 (1) 卷 1. 23 オの前例による。(2) 朱筆囲み。京大本同じ。(3) 京大本も朱筆。

Человѣкъ, сказавшій мнѣ

1

это[, ] называется [N]. 是ヲ我ニ語リシ人ハ何某ト云フ。

凡分動辞ハ種類單復時世及ヒ七轉

格ニ因テ轉移スル也○其單復種類及ヒ

七轉格ニ轉移スル所ハ属名辞ノ轉例ト相同シ。

5

即左ノ如シ○因 單 復 轉 移 例

〔單〕<sup>(1)</sup> работающий человек. 働ノ者

〔復〕<sup>(1)</sup> работающие люди. 働ノ者等

因種類轉移例

〔陽種〕<sup>(1)</sup> Стоящий столпъ, Стоящая веревя.  
立タル 柱 立タル 門ノ兩柱

10

〔中種〕<sup>(1)</sup> Стоящее дерево[.] (30 オ)  
立 木

注 (1) 朱筆囲み。京大本も同じ。

因七轉格轉移例

1

第一格	Любящему. <sup>(1)</sup>	愛スル…………ハ	
第二格	Любящего.	愛スル…………ノ	
第三格	Любящему.	愛スル…………ニ	
第四格	Любящего.	愛スル…………ヲ	5
第五格	Любящей. <sup>(2)</sup>	愛スル…………	
第六格	Любящимъ. <sup>(3)</sup>	愛スル…………ヨリ	
第七格	О Любящемъ.	愛スル…………ニ於テ	

分動辭ニ備ル所ノ時世ハ現在ト過去トノミニシテ

未来無シ。是動辭ト相同シ。其轉例左ノ如シ。」(30 ウ)

10

注 (1) 正：Любящий. (2) 正：Любящий. -ей は許容形。 (3) はじめ Любящемъ と書いた a を墨で抹消し、上に и と書いて訂正。京大本も同じ。

因時世轉移例<sup>(1)</sup>

1

現在<sup>(2)</sup> | Сидящий. писущий.<sup>(3)</sup>  
座タル 書タル

過去 不定	(2)	Сидѣвшій. <sup>(4)</sup>	Писавшій. <sup>(4)</sup>
	(2)	Сѣвшій. <sup>(4)</sup>	Написавшій. <sup>(4)</sup>
回過 時去 一	(2)	Посидѣвшій. <sup>(4)</sup>	Пописавшій. <sup>(5)</sup>
回過 時去 數	(2)	Сиживавшій.	Писывавшій.

5

[O] <sup>(6)</sup> Дѣепричастіи. 切断分動辞 <sup>(7)</sup>ハ

一名 Усѣченное причастіе[.]ト云フ。

分動辞ノ一種也。是 Наречія <sup>(8)</sup>。属用辞 ト

глаголь. 動辞 ト一連シ一句トナス寸ニ其動辞ニ」(31 オ)

10

注 (1) 下の例語で сидѣть と сѣсть を体の上で対応する動詞のように扱っているのは不適切。ただし、28 オ注4 参照。さらに過去一回時の по- のついたものも不適切。  
 (2) 傍線朱筆。京大本も同じ。(3) 正：пишущій。(4) 語尾の部分、はじめ -щій と書き、щ のヒゲを朱で抹消して ш と訂正。京大本も同じ。(5) 正：-вшій。  
 (6) 先例による補い。(7) 朱筆囲み。京大本同じ。(8) 正：Нарѣчіе。語末をはじめ -чіе と書き、е をなぞって я に訂正する。京大本も同じ。

代へ用ル辞也。如設

1

「時ニ 予 坐セシ ニ 椅子  
 Когда я сѣлъ на стуль,  
 則 此 刻 睡ル」<sup>(1)</sup>  
 то тотъ часъ заснулъ <sup>(2)</sup> .

予椅子ニ座セシ寸即時ニ睡リキ ト云フ所ヲ代ヘテ

Сѣвъ на стуль <sup>(3)</sup>, я тотъ

5

часъ заснулъ. 予椅子ニ坐シ忽睡レリ

ト云フ寸ニ是ヲ用フルナリ。又 Когда я напи-

салъ письмо, то отпра- <sup>(4)</sup>

вилъ оное[.] 予書翰ヲ書キシ時即彼ヲ

贈レリ ト云フ所ヲ Написавъ письмо[.,]

10

Я отправилъ оное. 書翰ヲ書タル」(31 ウ)



注 (1) 京大本も朱筆。(2) 正: заснулъ. (3) 正: стулъ. (4) 正: отпра-. 語頭の п と о の間に墨の縦線あり。京大本同じ。

時予彼ヲ贈レリト云フ時ニ用ル也。

1

此 Дѣпричастіе[.]ハ單復種

類七轉格等ニ因テ轉移スルハ無シ。唯時世ニ

因テ轉移スルノミ。都テ動辭ノ轉例ト同シ。但此

Дѣпричастіе[.]ニ於テハ未來ノ時世

5

コレナキ所ハ動辭ノ轉例ト異ニスル所也。即左ノ如シ<sup>(1)</sup>。

現 在	(2)	Сидясь, <sup>(3)</sup> 座シタル寸	пишучи <sup>(4)</sup> , 書シタル寸
--------	-----	------------------------------	-------------------------------

定過 去 不	(2)	Сидѣвъ, 坐シタル寸	писавъ, 書シタル寸
--------------	-----	---------------	---------------

過 去	(2)	Сѣвъ, 坐シタル寸	написавъ, 書シタル寸
--------	-----	-------------	-----------------

回過 時去 一	(2)	посидѣвъ, 一回座シタル寸	пописавъ, 一回書シタル寸
---------------	-----	-------------------	-------------------

10

回過 時去 數	(2)	Сиживавъ, 數回坐シタル寸	писывавъ, 數回座 <sup>(5)</sup> シタル寸」(32 オ)
---------------	-----	-------------------	--

注 (1) 以下の用例の一方では садиться-сѣсть の体の対応の他に сидѣть が入りこんでいる。さらに過去一回時に по- のついた動詞は不適切。28 オ注 4 参照。(2) 傍線朱筆。京大本も同じ。(3) 正: Садясь。(4) ふつう писать は現在副動詞を派生しない。(5) 正: 「書」。

(白)

」(32 ウ)

謝辞 本翻刻は静嘉堂文庫の許しを得てなされたものである。又オランダ語に関し日蘭学会の Ms. Isabel van Daalen より教示を得た。ともに記して深甚の謝意を表します。